

基本計画書

基本計画												
事項	記入欄								備考			
計画の区分	学部の学科の設置											
フリガナ 設置者	がっくほん へいりょうがくえん 学校法人 平成医療学園											
フリガナ 大学の名称	たがざか医療大学 (Takarazuka University of Medical and Health Care)											
大学本部の位置	兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1											
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に則り、「徳義の涵養と人間性尊厳の実践」を理念として、広く一般教養を授けるとともに深く学術・教育の理論及び応用を教授研究し、人間性豊かで幅広い視野を持った人材を育成することを目的とする。											
新設学部等の目的	人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性、理論的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意思と能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じて、医療チームの一員として他職と協働しながら、医療・保健・健康・福祉の向上および地域医療への貢献に資することを目的とする。											
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地				
	和歌山保健医療学部 〔Wakayama Faculty of Health Care Sciences〕 看護学科 〔Department of Nursing〕 計	年 4	人 50 50	年次人 —	人 200 200	学士（看護学） 〔Bachelor of Nursing〕	年月 第 年次 令和4年4月 第1年次	和歌山県和歌山市西庄1107-26				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当なし										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数					
	和歌山保健医療学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	125単位						
教員組織の概要	学部等の名称				専任教員等					兼任教員等		
					教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	和歌山保健医療学部 看護学科				8人 (2)	3人 (1)	6人 (1)	4人 (2)	21人 (6)	6人 (6)	29人 (18)
		計				8人 (2)	3人 (1)	6人 (1)	4人 (2)	21人 (6)	6人 (6)	— (—)
	既設分	保健医療学部 理学療法学科				5 (5)	1 (1)	5 (5)	2 (2)	13 (13)	1 (1)	18 (18)
		柔道整復学科				7 (7)	1 (1)	5 (5)	2 (2)	15 (15)	4 (4)	32 (32)
		鍼灸学科				6 (6)	0 (0)	4 (4)	1 (1)	11 (11)	1 (1)	29 (29)
		和歌山保健医療学部 リハビリテーション学科				10 (10)	2 (2)	5 (5)	5 (5)	22 (22)	0 (0)	24 (24)
		計				28 (28)	4 (4)	19 (19)	10 (10)	61 (61)	6 (6)	— (—)
	合計				36 (30)	7 (5)	25 (20)	14 (12)	82 (67)	12 (12)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計			
	事務職員		37人 (37)	25人 (23)	62人 (60)			
	技術職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	図書館専門職員		1 (1)	2 (1)	2 (2)			
	その他の職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計		38 (38)	27 (24)	64 (62)				
校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	21,545.11㎡	3,268.03㎡	0㎡	24,813.14㎡	借用面積：2,723.67㎡ 借用期間：39年 借用面積：3,268.03㎡ 借用期間：20年 借用面積：290.59㎡ 借用期間：18年6ヶ月		
	運動場用地	18,912.12㎡	0㎡	0㎡	18,912.12㎡	借用面積：538.70㎡ 借用期間：39年		
	小 計	40,457.23㎡	3,268.03㎡	0㎡	43,725.26㎡	借用面積：3,262.37㎡ 借用期間：39年 借用面積：3,268.03㎡ 借用期間：20年 借用面積：290.59㎡ 借用期間：18年6ヶ月		
	その他	12,548.36㎡	131.97㎡	0㎡	12,680.33㎡	借用面積：737.63㎡ 借用期間：39年 借用面積：131.97㎡ 借用期間：20年		
	合計	53,005.59㎡	3,400.00㎡	0㎡	56,405.59㎡	借用面積：4,000.00㎡ 借用期間：39年 借用面積：3,400.00㎡ 借用期間：20年 借用面積：290.59㎡ 借用期間：18年6ヶ月		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	和歌山看護専門学校 収容定員150名 面積基準：740㎡ (令和6年3月廃止予定) 借用面積：1,097.57㎡ 借用期間：18年6ヶ月		
		21,568.02㎡ (18,263.56㎡)	0㎡ (2,592.46㎡)	0㎡ (740㎡)	21,568.02㎡ (21,596.02㎡)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	29室	3室	27室	2室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数				
		和歌山保健医療学部 看護学科		20 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む 図書 21,341 [2,054] 雑誌 70 [17]
	和歌山保健医療学部 看護学科	32,251 [2,187] (31,431 [2,167])	106 [19] (106 [19])	2 [0] (2 [0])	196 (181)	2,839 (2,513)	39 (39)	
	計	32,251 [2,187] (31,431 [2,167])	106 [19] (106 [19])	2 [0] (2 [0])	196 (181)	2,839 (2,513)	37 (37)	
図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
	665.82㎡		167		70,000			
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
	1,504.44㎡		テニスコート1面		多目的グラウンド1面			

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当り研究費等	—	250千円	250千円	250千円	250千円	—千円	—千円	
		共同研究費等	—	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	5,130千円	3,400千円	2,650千円	1,550千円	1,550千円	—千円	—千円	
		設備購入費	42,066千円	22,960千円	10,658千円	0千円	0千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,750千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			雑費等収入等							
既設大学等の状況	大学の名称		宝塚医療大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	保健医療学部	年	人	年次-人	人		1.05倍		兵庫県宝塚市 花屋敷緑ガ丘1	
	理学療法学科	4	70	-	280	学士（保健医療学）	1.06	H23.4		
	柔道整復学科	4	60	-	240	学士（保健医療学）	1.06	H23.4		
	鍼灸学科	4	30	-	120	学士（保健医療学）	1.01	H23.4		
和歌山保健医療学部	年	人	年次-人	人		1.02		和歌山県和歌山市 中之島2252		
リハビリテーション学科	4	100	-	400	学士（保健医療学）	1.02	R2.4			
附属施設の概要		名称：宝塚医療大学附属治療院 目的：柔道整復学科及び鍼灸学科の臨床実習施設 設置年月日：平成23年4月1日 面積：治療院 261㎡ 待合室 28㎡ 事務所 8㎡ その他30.53㎡ 計327.53㎡ 場所：兵庫県宝塚市花屋敷緑ガ丘1								

教育課程等の概要

（和歌山保健医療学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	一般教育科目	哲学	1前		2		○									兼1	
		人文	東洋思想論	1前		2		○								兼1	
		日本の文化	1後		2		○									兼1	メディア
		文化人類学	1後		2		○									兼1	メディア
		社会	日本国憲法	1前	2			○								兼1	メディア
		社会と法	1後		2			○								兼1	メディア
		社会福祉学	1前	2				○								兼1	メディア
		わかやま未来学	1後		2			○								兼1	メディア
		自然	統計学	1前	2			○								兼1	
		数学	1前		2			○								兼1	
	物理学	1後		2			○								兼1		
	化学	1前		2			○								兼1		
	生物学	1後		1			○								兼1		
	外国語科目	英語	1前	1			○								兼1		
	医学英語Ⅰ	1後	1				○								兼1		
	医学英語Ⅱ	2後		1			○								兼1	メディア	
	英会話	1後		1			○								兼1	メディア	
	処情報	情報処理演習Ⅰ	1前	1				○							兼1	メディア	
	情報処理演習Ⅱ	1後		1				○							兼1	メディア	
	スポーツ・健康	健康と体づくり	2前		2		○								兼1	メディア	
	スポーツトレーニング学	3前		2			○								兼1	メディア	
	健康トレーニング演習	2後		1				○							兼1		
	体育実技Ⅰ	1後	1						○						兼1		
	体育実技Ⅱ	2前		1						○					兼1		
	総合教養科目	コミュニケーション演習	1後	1					○						兼1		
	心理学	2後	2				○								兼1	メディア	
	医療経営学	4後		2			○								兼1	メディア	
	メディカルツアリズム論	2前		2			○								兼1		
	伝統医療論	1後		2			○								兼1		
	基礎ゼミナール	1前	1					○			2	1	1	1		共同	
小計（30科目）		—	14	34	0	—			2	1	1	1	0	15			
専門基礎科目	人体と機能および疾病と回復	解剖学Ⅰ	1前	1			○								兼1		
		解剖学Ⅱ	1後	1			○								兼1		
		生理学	1後	1			○								兼1		
		生化学	1後	1			○								兼1		
		臨床栄養学	1後	1			○				1						
		薬理学	1後	1			○								兼1		
		病理学	1後	1			○								兼1		
		微生物学	1後	1			○								兼1		
		看護物理学	2後		1			○							兼1		
		病態生理・治療学Ⅰ（成人急性期）	2前	2				○							兼1		
		病態生理・治療学Ⅱ（成人慢性期）	2前	2				○							兼1		

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康支援と制度	病態生理・治療学Ⅲ(老年)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅳ(小児)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅴ(母性)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅵ(精神)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅶ(リハビリテーション)	2後	1			○									兼1
	公衆衛生学	3前	1			○									兼1
	疫学	3前	1			○									兼1
	関係法規	1後	1			○									兼1
	社会保障制度	2前	2			○			1			1			兼1 オムニバス
	医療情報学	1後	1			○									兼1
	人間関係論	1前		1		○			1						兼1
カウンセリング論(赤星)	3前	1			○			1						兼1	
小計(23科目)	—	24	2	0	—			2	0	0	1	0	15		
看護の基礎科目	看護学概論	1前	2			○			1						
	基礎看護技術学Ⅰ	1前	2				○		1		1	1	3	共同	
	基礎看護技術学Ⅱ	1後	2				○		1		1	1	3	共同	
	基礎看護技術学Ⅲ	2前	2				○		1		1	1	3	共同	
	基礎看護技術学Ⅳ	2後	1				○		1		1	1	3	共同	
	看護過程論	2後	1				○		1		1	1	3	共同	
	ヘルスアセスメント	2前	1				○		1						
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	1		6	4	3	共同	
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○	1		6	4	3	共同	
	チーム医療論	3前	1			○			1						
	看護倫理学	1後	1			○			1						
小計(11科目)	—	16	0	0	—			2	0	6	4	3	0		
専門科目 看護の展開科目	成人看護学概論	2前	2			○			1						
	成人看護学各論ⅠA(急性期:周手術期)	2後	1				○		1		1			共同	
	成人看護学各論ⅠB(急性期:救急看護・クリティカルケア)	3前	1				○		1		1			共同	
	成人看護学各論Ⅱ(慢性期)	2後	1				○		1						
	リハビリテーション看護学	3前	1				○		1	1				オムニバス	
	高齢者看護学概論	2前	2			○				2				オムニバス	
	高齢者看護学各論Ⅰ	2後	1				○			1	2	1		共同	
	高齢者看護学各論Ⅱ	3前	1				○			1	2	1		共同	
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ(急性期)	3後・4前	2					○	1		1		1	共同	
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後・4前	2					○			1		2	共同	
	成人・高齢者看護学実習Ⅲ(リハビリ期)	3後・4前	2					○		1	1	2		共同	
	成人・高齢者看護学実習Ⅳ(生活支援)	3後・4前	2					○		1	1	2	3	共同	
	成人・高齢者看護学実習Ⅴ(地域連携)	3後・4前	1					○	1	1	1		3	共同	
	小児看護学概論	2前	2			○			1						
	小児看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1		1			共同	
	小児看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1		1			共同	
	小児看護学実習	3後・4前	2					○	1		1			共同	
母性看護学概論	2前	2			○			1							

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	母性看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1	2					共同
	母性看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1	2					共同
	母性看護学実習	3後・4前	2					○	1	2					共同
	精神看護学概論	2前	2			○			1						
	精神看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1			1			共同
	精神看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1			1			共同
	精神看護学実習	3後・4前	2					○	1			1			共同
	地域・在宅看護学概論	2前	2			○			1						
	地域・在宅看護学各論Ⅰ	2後	2			○			1		1				オムニバス
	地域・在宅看護学各論Ⅱ	3前	2				○		1		1				共同
	地域・在宅看護学実習	3後・4前	2					○	1		1	2	3		共同
	緩和ケア	4後		1		○			1		1				オムニバス
	災害看護論	4後	1			○				1				兼1	オムニバス
	看護管理学	4前	1			○			1						
	感染看護学	2後	1			○			1						
	看護教育学	4後		1		○			1		1				オムニバス
	看護理論と実践	3前		1		○			2	1					オムニバス
	地域精神保健学	4後		1		○			1			1			オムニバス
	国際看護論	4後		1		○								兼1	
	看護の統合Ⅰ(演習)	4前	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅱ(演習)	4後	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅰ(実習)	4前	1					○	1		6	3	3		共同
	看護の統合Ⅱ(実習)	4前	2					○	8	3	6	4	3		共同
	看護研究Ⅰ	4前	2			○			3	1					オムニバス
	看護研究Ⅱ	4後	2				○		8	3	6	3			共同
	小計(43科目)	—	59	5	0	—	—	—	8	3	6	4	3	2	
	合計(107科目)	—	113	41	0	—	—	—	8	3	6	4	3	29	
	学位又は称号		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
	卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上(専門科目から2単位以上)を修得し、合計125単位以上を修得すること。 履修登録の上限は、各学期(セメスター)の上限を24単位とし、年間の履修登録の上限は、48単位とする。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要

（和歌山保健医療学部看護学科）

中之島校舎

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	一般教育科目	哲学	1前	2		○									兼1	
		人文	東洋思想論	1前	2		○								兼1	
		日本の文化	1後	2		○									兼1	
		文化人類学	1後	2		○									兼1	
		社会	日本国憲法	1前	2		○									兼1
		社会と法	1後	2		○										兼1
		社会福祉学	1前	2		○										兼1
		わかやま未来学	1後	2		○										兼1
		自然	統計学	1前	2		○									兼1
	数学	1前	2		○										兼1	
	物理学	1後	2		○										兼1	
	化学	1前	2		○										兼1	
	生物学	1後	1		○										兼1	
	外国語科目	英語	1前	1		○									兼1	
	医学英語Ⅰ	1後	1		○										兼1	
	医学英語Ⅱ	2後	1		○										兼1	
	英会話	1後	1		○										兼1	
	処情報	情報処理演習Ⅰ	1前	1			○								兼1	
	情報処理演習Ⅱ	1後	1				○								兼1	
	スポーツ・健康	健康と体力づくり	2前	2		○									兼1	
	スポーツトレーニング学	3前	2		○										兼1	
	健康トレーニング演習	2後	1			○									兼1	
	体育実技Ⅰ	1後	1					○							兼1	
	体育実技Ⅱ	2前	1						○						兼1	
	総合教養科目	コミュニケーション演習	1後	1				○							兼1	
	心理学	2後	2			○									兼1	
	医療経営学	4後	2			○									兼1	
	メディカルツアーズ論	2前	2			○									兼1	
	伝統医療論	1後	2			○									兼1	
	小計（29科目）	—	13	34	0	—			0	0	0	0	0	15		
専門基礎科目	人体と機能および疾病と回復	解剖学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		解剖学Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		生理学	1後	1			○								兼1	
		生化学	1後	1			○								兼1	
		薬理学	1後	1			○								兼1	
		病理学	1後	1			○								兼1	
		微生物学	1後	1			○								兼1	
		看護物理学	2後		1		○								兼1	
		病態生理・治療学Ⅰ（成人急性期）	2前	2			○								兼1	
		病態生理・治療学Ⅱ（成人慢性期）	2前	2			○								兼1	
		病態生理・治療学Ⅲ（老年）	2後	1			○								兼1	
		病態生理・治療学Ⅳ（小児）	2後	1			○								兼1	

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

中之島校舎

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康支援と制度	病態生理・治療学Ⅴ(母性)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅵ(精神)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅶ(リハビリテーション)	2後	1			○									兼1
	公衆衛生学	3前	1			○									兼1
	疫学	3前	1			○									兼1
	関係法規	1後	1			○									兼1
	医療情報学	1後	1			○									兼1
	小計(19科目)	—	20	1	0	—			0	0	0	0	0	0	14
合計(48科目)		—	33	35	0	—			0	0	0	0	0	29	
学位又は称号			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上(専門科目から2単位以上)を修得し、合計125単位以上を修得すること。 履修登録の上限は、各学期(セメスター)の上限を24単位とし、年間の履修登録の上限は、48単位とする。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要															
(和歌山保健医療学部看護学科)														西庄校舎	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	総合教養 基礎ゼミナール	1前	1					○			2	1	1	1	共同
	小計（1科目）	—	1	0	0			—			2	1	1	1	0
専門基礎科目	人体と機能および疾病と回復 臨床栄養学	1後	1					○			1				
	健康支援と 社会保障制度	2前	2					○			1		1	兼オムニバス	
	人間関係論	1前	1	1				○			1				
	カウンセリング論	3前	1					○			1				
	小計（4科目）	—	4	1	0			—			2	0	0	1	0
看護の基礎科目	看護学概論	1前	2					○			1				
	基礎看護技術学Ⅰ	1前	2					○			1	1	1	3	共同
	基礎看護技術学Ⅱ	1後	2					○			1	1	1	3	共同
	基礎看護技術学Ⅲ	2前	2					○			1	1	1	3	共同
	基礎看護技術学Ⅳ	2後	1					○			1	1	1	3	共同
	看護過程論	2後	1					○			1	1	1	3	共同
	ヘルスアセスメント	2前	1					○			1				
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1						○		1	6	4	3	共同
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2						○		1	6	4	3	共同
	チーム医療論	3前	1					○			1				
	看護倫理学	1後	1					○			1				
小計（11科目）	—	16	0	0			—			1	0	6	4	3	0
専門科目	成人看護学概論	2前	2					○			1				オムニバス
	成人看護学各論ⅠA（急性期：周手術期）	2後	1					○			1	1			共同
	成人看護学各論ⅠB（急性期：救急看護・クリティカルケア）	3前	1					○			1	1			共同
	成人看護学各論Ⅱ（慢性期）	2後	1					○			1				
	リハビリテーション看護学	3前	1					○			1	1			オムニバス
	高齢者看護学概論	2前	2					○				2			オムニバス
	高齢者看護学各論Ⅰ	2後	1					○			1	2	1		共同
	高齢者看護学各論Ⅱ	3前	1					○			1	2	1		共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期）	3後・4前	2						○		1	1		1	共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）	3後・4前	2						○			1		2	
	成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）	3後・4前	2						○		1	1	2		共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）	3後・4前	2						○		1	1	2	3	共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）	3後・4前	1						○		1	1		3	共同
	小児看護学概論	2前	2					○			1				
小児看護学各論Ⅰ	2後	1					○			1	1			共同	
小児看護学各論Ⅱ	3前	1					○			1	1			共同	

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

西庄校舎

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	小児看護学実習	3後・4前	2					○	1		1				共同
	母性看護学概論	2前	2			○			1						共同
	母性看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1	2					共同
	母性看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1	2					共同
	母性看護学実習	3後・4前	2					○	1	2					共同
	精神看護学概論	2前	2			○			1						共同
	精神看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1		1				共同
	精神看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1		1				共同
	精神看護学実習	3後・4前	2					○	1		1				共同
	地域・在宅看護学概論	2前	2			○			1						オムニバス
	地域・在宅看護学各論Ⅰ	2後	2			○			1	1					共同
	地域・在宅看護学各論Ⅱ	3前	2				○		1	1					共同
	地域・在宅看護学実習	3後・4前	2					○	1	1	2	3			共同
	緩和ケア	4後		1		○			1	1					オムニバス
	災害看護論	4後	1			○				1				兼1	オムニバス
	看護管理学	4前	1			○			1						
	感染看護学	2後	1			○			1						
	看護教育学	4後		1		○			1		1				オムニバス
	看護理論と実践	3前		1		○			2	1					オムニバス
	地域精神保健学	4後		1		○			1			1			オムニバス
	国際看護論	4後		1		○								兼1	
	看護の統合Ⅰ（演習）	4前	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅱ（演習）	4後	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅰ（実習）	4前	1					○	1		6	3	3		共同
	看護の統合Ⅱ（実習）	4前	2					○	8	3	6	4	3		共同
	看護研究Ⅰ	4前	2			○			2	1					オムニバス
	看護研究Ⅱ	4後	2				○		8	3	6	4			共同
	小計（45科目）	—	59	5	0	—	—	—	8	3	6	4	3	2	
	合計（107科目）	—	80	6	0	—	—	—	8	3	6	4	3	3	
	学位又は称号					学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）								
	卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上（専門科目から2単位以上）を修得し、合計125単位以上を修得すること。 履修登録の上限は、各学期（セメスター）の上限を24単位とし、年間の履修登録の上限は、48単位とする。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授業科目の概要			
(和歌山保健医療学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文	哲学	<p>「自明の再考」（あたりまえのことをみなおすこと）「日常の再考」（ふつうのことをみなおすこと）を契機に、社会における日常生活にて直面するさまざまな問題について、自らの考えを整理する。すなわち、「私は、・・・と考える。」そして、「その理由」も明らかにする。具体的には、社会におけるあるいは日常における、さまざまな問題課題をひとつひとつ丁寧に取り上げ、学生諸氏とともに考えていく。</p> <p>この授業をとおして、単なる哲学史を学ぶのではなく、自ら問題意識をもち、その本質を探究することができる能力を身に付ける。</p>	
	東洋思想論	<p>我が国の成立には、古代中国、朝鮮からもたらされた思想が色濃く影響している。</p> <p>古代中国、朝鮮及び日本における思想の流れを、歴史的背景や各国の関係などにも注目しながら概説する。仏教、儒教及び諸氏の思想を中心にその特色や発展、日本への影響について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、さまざまな思想にふれることにより、多面的なものの見方、考え方を尊重し、柔軟にとらえる態度を身に付けると共に、それらを自らの意見に組み込む能力の素養を身に付ける。</p>	
	日本の文化	<p>今後、一層国際交流が活発化していくことが考えられるが、正しく日本を紹介するためには、正確な日本文化の理解が必須である。この講義では、現在クールジャパンと呼ばれ世界に紹介されている日本文化について取り上げ、それぞれの源泉を探る。また、和歌山県にある世界文化遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」を例にとり、その特色や歴史的経緯、文化的な価値について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、日本の文化について理解を深めることはもちろん、自身のことばで日本の文化について発信できるよう、情報を収集し、取りまとめる能力の獲得を目指す。</p>	

一般教育科目	社会	文化人類学	<p>文化人類学の知的伝統に親しむことで、「自分の属する社会の中で当たり前とされている様々な考え方」を、少し距離を置いて見つめなおす。具体的には多様な文化の存在を知り、多様な文化を「偏りなく理解する理論・方法論」を概観することで、それらを尊重する態度を養う。</p> <p>この授業をとおして、様々な情報を吟味し、適切に解釈する方法を考える能力を身に付け、多様な環境に対応して存在する様々な価値観に対する理解を深めてゆく。なお、「医療」に関する知見を多く採用し講義を展開する。</p>	
		日本国憲法	<p>法治国家である我が国にとって、日本国憲法は国の基本的なあり方を定めるきわめて重要な法律である。憲法は国の組織に形と権限を与える（統治機構）とともに、権力による個人の権利の侵害を防止し（人権保障）、すべての人にとって住みよい社会を実現することを究極の目標としている。</p> <p>この授業をとおして、日本国憲法の基本的構造や特徴および考え方について、基本的知識を修得することを目指す。</p>	
		社会と法	<p>私たちの市民生活は様々な法規範に基づいて営まれているが、トラブルに遭遇しない限り、「法の下での生活」という実感はないのが普通である。身近な生活の中で関わりのある家族生活に必要な法をはじめとして、社会人として必要な様々な場面での法、医療職として必要な法について取り上げ、法令等をとおして社会への理解を深める。併せて遵法意識と倫理感を養う。</p> <p>この授業をとおして、責任ある市民として、また自分自身の生活を守るために必要な法の基本的知識を修得する。</p>	
		社会福祉学	<p>社会福祉の歴史について概説した上で、社会福祉の原点、格差や差別を生み出す社会背景及びこれを乗り越えるための社会福祉制度について学ぶ。また、医療職を目指すにあたって、医療と福祉の連携を近年の地域包括支援サービス施策との関連について解説する。</p> <p>この授業をとおして、日本の社会福祉の歴史、現状、課題を概観でき、福祉と医療の連携についての基礎的知識を修得する。</p>	
		わかやま未来学	<p>「和歌山県」の自然や環境、歴史や文化をとおして和歌山の特色や、現状、問題点について探る。これらをとおして「和歌山県」への理解を深めると共に、新しい未来の和歌山の在り方、目指す方向などについて検討する。</p> <p>この授業をとおして、「和歌山県」への理解を深めると共に、地域創生に携わるために必要な素養を身に付けることを目標とする。</p>	

自然	統計学	<p>代表値や相関と回帰を学ぶことで医学データのまとめ方や確率の基礎・分散分析などを理解する。データと標本調査について学習し、統計学的推定と検定、割合・率・比・リスクについて学んだあと、リスク比、オッズ比、オッズ差の信頼区間へと学習を進める。相関関係と因果関係について学んだあと検定・推定と標本数の関係を理解することで、研究の妥当性、コントロールの必要性、治療の効果、疫学研究から因果関係を調べるための考え方を身に付ける。この授業をとおして、統計学を用いた研究の素養を身に付けるための基本的能力を養う。</p>	
	数学	<p>数学は自然現象の本質的な法則を理解するための重要なツールである。重要な関数の性質、曲線の形状、演算規則等について学び、次に微分学、導関数について、積分学では定積分及び面積計算等を行う。講義ではあるが、基礎的内容の繰り返し演習を行う。</p> <p>この授業をとおして、医療の分野で必要な解析学を中心とした数学の基礎的な能力の獲得を目指す。</p>	
	物理学	<p>医療専門職を目指す学生が最も必要とする力学を中心として授業を行う。物体の位置、速度、加速度の概念、力、質量の概念、重力、物体運動の概念、仕事、エネルギーの概念等を数学的、視覚的に講義していく。物理学の概念を理解するには、数学の知識が必須であることから、種々の物理学的な事柄において現れる数学についても解説する。</p> <p>この授業をとおして、医療専門職として求められる物理学の基礎的な能力の獲得を目指す。</p>	
	化学	<p>化学は、物質の理解と創造を可能にする学問であり、私たちの生活に密接に結びついている。今後も、あらゆる自然科学の分野の基礎として重要性を増すと考えられ、最先端の技術を支えていく。医療専門職を目指す学生にとっても化学を学ぶ意義は大きく、本講義では、化学理論、無機物学、有機化合物、高分子化合物について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、化学反応式を用いた量的計算をはじめ、化学的性質反応を説明できる知識を身に付けると共に、化学的な自然観を養う。</p>	

		生物学	<p>生物学は、医療専門職を目指す学生にとって、生理学や病理学へとつながる重要な基礎的知識である。</p> <p>本講義では、細胞の構造と生命誕生、生命体を構成する物質、生命体の受精と成長、多細胞生物の自己維持機能、遺伝の仕組みと遺伝病等生物学に関する事項を幅広く取り扱い、演習形式で生物学の基礎知識の増強を図る。</p> <p>この授業をとおして、生物学への理解を深め、生体の精緻な仕組みと生命の尊厳を理解することを目指す。</p>	
学部 共通 科目	外国 語科 目	英語	<p>医療専門職を目指す学生にとって、学習、研究のみならず、実際の仕事において、英語力の必要性はますます高まってきている。本科目では、中学、高校と学んできた英語を復習しながら、多くの英文にふれることにより、まずは読解力を養ってゆく。同時に、語彙力も養う。また、さらにリスニング力の増強を図る。学生諸君には、毎回の出席と積極的な授業参加、および自宅学習を求める。</p> <p>この授業をとおして、これまで学んできた英語の総復習を行うと共に、英語の読解力の向上を目指す。</p>	
		医学英語 I	<p>英語で修得したことを基礎として、医学論文を読解するための読解力を育成する。様々なテーマを取り上げているテキストを用いる。同時に、医学英語の入門として、ごく基本的な医学用語を学びながら、身近な医学に関する英米の新聞や雑誌の記事などを読む。とりあげる記事等については、学生自身が関心のあるテーマを選ぶ等、主体性のある授業参加を求める。</p> <p>この授業をとおして、英語能力の更なる向上と、英語文献を読解するための能力の獲得を目指す。</p>	
		医学英語 II	<p>英語及び医学英語 I で修得した英語力を基礎として、医学に関する英語の文献を読解する力を育成する。まずは研究のための参考文献読解に必要な医学用語や表現を修得する。さらには、一般的な医学書なども読解できることを目指す。また、医学用語については、ラテン語やギリシャ語の語源から学び、専門用語の語彙力を育成する。</p> <p>この授業をとおして、英語能力を活用し、英語論文の一般的な様式を理解し、今後の研究等に役立てることが出来る能力を養う。</p>	

	英会話	<p>英会話では、まずは日常会話力を育成する。さらに、学生それぞれが調べたり考えたりしたことを元に、ディスカッションやプレゼンテーションをすることを旨とする。授業では、積極的に発話し体を動かして英語力を身に付ける。学生諸君は、英会話＝エクササイズにとらえ、授業に積極的に参加するだけでなく、（とりわけ会話力は、授業だけで修得することは困難であるので）日々の自宅学習を行うことが求められる。</p> <p>この授業をとおして、日常生活に必要な英語での会話能力の獲得を目指す。</p>	
情報処理	情報処理演習Ⅰ	<p>現在の情報社会においては、いまやそれを支える技術やその背景は空気のような存在になりつつある。一方、大量に生み出される情報に押し流されないようにするためには基本的な知識を身に付けておく必要がある。本講義では、①情報リテラシー、②コンピュータを自由に使いこなす基本操作（文書作成、表操作）とその働き、③インターネットを支える技術とその仕組み、④コンピュータのハードウェアに関する基本等コンピュータの基本操作から情報システムの仕組みまで身近な技術を中心について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、コンピュータの基本操作に習熟すると共に、情報リテラシーやネットモラルに関する知識の獲得を目指す。</p>	
	情報処理演習Ⅱ	<p>この授業では、Pythonを用いたプログラミング入門の演習を行う。当該プログラミングをとおして、問題解決のための論理的思考能力を養い、データ分析の基礎を学び、専門の授業や卒業研究、卒業後の業務等に役立つよう、分析スキルの初歩を修得することを目的とする。Pythonの優れたライブラリを使い、短くて簡単なプログラムが書けるように指導する。</p> <p>この授業をとおして、Pythonを活用して、プログラムの基礎的能力を身に付けると共に、論理的思考、分析能力を身に付けることを目指す。</p>	

スポーツ・健康科学	健康と体力づくり	<p>健康の維持増進のために、運動、食事および休養（睡眠）が重要な要因であることは周知の事実である。現代社会では、食生活が豊かで運動不足の状態にあり、さらに睡眠時間の短縮や睡眠時刻のずれなど健康維持の基本が不均衡の状態にある。この状態は若い時代からすでに始まり若年性の肥満や高血圧などの生活習慣病の発現が早まっている。</p> <p>そこで本講義では、体力や健康を維持し活動的な毎日が送れるように積極的な体力づくりとして行動体力づくりや防衛体力づくりの理論について講義する。</p> <p>この授業をとおして、健康や体力の概念について理解し、具体的な体力づくりの方法に関する知識の獲得を目指す。</p>	
	スポーツトレーニング学	<p>本講義ではスポーツ・運動に関連する生理学を基礎としてアスリートのみならず中高齢者、慢性疾患等に対するトレーニング論の知識を修得する。年齢、老化、運動不足、生活習慣病等の関連も考慮しながら広く身体運動機能の維持・発達のための理論を学ぶと共に、選手の立場や、指導者の責任についても学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、トレーニングの意義や方法を学ぶと共に、指導者の役割、責任についても理解し、指導者としての素養を身に付けることを目指す。</p>	
	健康トレーニング演習	<p>スポーツトレーニング学で学んだトレーニング理論を基に、健康の維持・増進を図るため、筋力、持久力、柔軟性、敏捷性など各トレーニングの要素ごとに効率的な運動の方法を演習形式で学ぶ。トレーニングの方法と理論について理解を深めると共に、具体的な運動処方方法についても学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、トレーニング指導者としてより具体的な指導方法を身に付けると共に、自身の運動観の育成を目指す。</p>	
	体育実技 I	<p>「生涯に亘ってスポーツ（身体運動文化）を主体的に享受できる」ことを目指してその普遍的価値である「楽しさ」「運動の爽快感」を引き出したり強めることのできる能力を培うことを目標とする。具体的には、ニュースポーツなどのレクリエーション色の強いスポーツをプレイする。</p> <p>この授業をとおして、自らが楽しむだけでなく、仲間とその楽しさを共有できる実践力を身に付ける。</p>	

	<p>生涯に亘ってスポーツ（身体運動文化）を主体的に享受し続けることができるように、日常的なスポーツの実施による体力（行動体力・防衛体力）への将来的な影響を予測し、いつまでも運動を楽しみながら実施できるようになるとともにその方法を修得する。具体的には、比較的運動強度が低い体操や競技を行い、自身が無理なく継続できる競技等を行う。</p> <p>この授業をとおして、生涯スポーツへの関心を深め、自ら実践するための基礎を養う。</p>		
総合教養科目	<p>コミュニケーション演習</p>	<p>人間関係を良好にするための概論を学びながら、医療従事者として必要なコミュニケーションスキルを学習することは必要不可欠である。本演習では初対面の人に対しても、対象者の発信する意図を理解しつつ、自らの意思を正しく伝達できる能力を身に付け、臨床現場で必須として求められる人間関係の構築の意義についても学ぶ。実際の演習では、コミュニケーションのハウツー教授ではなく、朗読、音楽、グループワーク、ロールプレイなどを導入しコミュニケーションをとることの本質的な意味を体験学習する。</p> <p>この授業をとおして、将来の多様な社会事情や患者層の暮らす地域生活に密着して活躍できる医療従事者として必要な実践的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。</p>	
	<p>心理学</p>	<p>心理学基礎論、心理療法、心理アセスメント、精神分析、精神医学、身体発達と老化、認知・関係性の発達、パーソナリティの形成、ライフサイクルにおける心理的問題などについて、事例・症例をあげ講義する。心理学全体の基本的な知見について概説し、心理学に関する理解を深める。</p> <p>この授業をとおして、心理学の学問領域を概観し、心理学の基礎的知識を獲得することを目指す。</p>	
	<p>医療経営学</p>	<p>現代マーケティング理論の概要について講義する。マーケティングの基礎理論を学習し、企業経営においてマーケティングがどのような役割を果たしているのかを、事例を取上げながら講義する。その後、医療に関するマーケティングの実際や、市場調査等について事例を取上げながら講義する。</p> <p>この授業をとおして、マーケティングの基礎的な知識を身に付け、これを医療経営に活用する素養を身に付けることを目指す。</p>	

	<p>メディカルツーリズム論</p>	<p>メディカルツーリズム（医療観光）は、国の施策もあり、今後医療渡航者の増加が見込まれる分野であり、将来医療に携わる者が獲得しておくべき知識である。メディカルツーリズムについて概説し、諸外国での取組、わが国での現状と課題について講義する。 この授業をとおして、国際社会での医療貢献について基礎的な知識を身に付け、国際感覚を養う。</p>	
	<p>伝統医療論</p>	<p>世界各地には近代西洋医学とは別個の民族医学が形成されている。民族医学の中には漢方医学の様に明確な体系をもつものから非体系的かつ経験的な民間療法まで様々な形態の医学・療法が存在する。世界の伝統医療の歴史や概念等について学ぶとともに、わが国で長らく医療の中心であった東洋医学の概念について学ぶ。 この授業をとおして、多様な医療の在り方、わが国での伝統医学についての基礎的な知識を身に付け、幅広い観点から医療について考えることができる素養を身に付ける。</p>	
	<p>基礎ゼミナール</p>	<p>大学で学ぶための基礎及び学習内容について、課題の理解、調査、レポート作成、文献検索、過去の歴史的転換点となった論文抄読などをとおして、大学で学ぶための学習方法や知識、ライフスタイルに気づかせる。それと同時に、総合的に自分の考えをまとめ、伝える能力を培う。そして、国際および情報社会に対応できる基本的な能力について、自己評価し、自分に必要なことを踏まえて、様々な問題や課題を自ら発見し、発展させられる能力を身に付ける。これらをとおして、科学的・論理的思考を育てて主体的な判断、行動する能力を培う。看護を目指す学生としての自覚と倫理観、将来展望を持ち、今後大学で目標をもって学べるように、職業観を育む。 この授業をとおして、看護を学ぶ大学生としての自覚を身に付け、大学での学びの具体的な実践能力を養う。</p>	<p>共同</p>
	<p>解剖学 I</p>	<p>解剖学は人体の構造を理解することが目的であり、看護学を学ぶ上で最も基礎となる科目である。この授業では主に全身の骨格系と筋系（これらをあわせて運動器系と言う）の構造について学ぶ。また、解剖学は生理学と合わせて人体の構造と機能を一体として理解することが求められることから、単に用語を覚えるのではなく、人体全体の構造を把握が出来る能力を養う。 この授業をとおして、人体の正常な構造（主に運動器系）について基礎的な知識を身に付ける。</p>	

解剖学Ⅱ	<p>この科目では、「解剖学Ⅰ」に続いて人体の構造について学ぶ。人体を構成する器官系として循環器(心臓、血管および血圧)、呼吸器、消化器(肝臓・胆嚢・膵臓や消化吸収、栄養分の代謝を含む)、腎・泌尿器、生殖器、そして内分泌器官などの構造について学ぶ。また、「解剖学Ⅰ」との連続性に留意し、人体全体の構造について学修する。</p> <p>この授業をとおして、人体の正常な構造(主に循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器、内分泌器官)について、基礎的な知識を身に付ける。</p>	
生理学	<p>生命維持の基礎であるホメオスタシス(恒常性)の維持機構を個体レベルで理解することを目指す。人体を構成する各器官の基本的な機能(はたらき)について、系統立てて学ぶ。疾患を理解する上で正常な人体の機能を理解することは必須であり、この科目は看護学において重要な基礎知識となる。単に用語を覚えるのではなく、人体全体の精密な機能の理解を目指す。</p> <p>この授業をとおして、生理学の基礎的な知識を得、解剖学の知識と統合し正常な人体について理解することを目指す。</p>	
生化学	<p>人体の活動を維持している化学反応の推進である代謝について学ぶ。代謝の過程と、人体を構成する高分子の構造及び機能についての基本的な知識の獲得を目指す。また、生化学の基礎となる細胞と生体高分子の構造、性質について学ぶ。つづいて、人の体に備わる代謝経路のうち、エネルギー産生系をとりあげる。</p> <p>この授業をとおして、人体における巧妙な代謝機能についての基礎的な知識の修得を目指す。</p>	
臨床栄養学	<p>この授業では、看護の対象者の食生活や栄養状態をアセスメントし、適切な看護援助を提供するために必要な栄養学の基本知識について修得する。5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義、日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法、栄養アセスメントの意義と方法、健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活、疾病回復のための食事療法についての根拠と方法、疾病予防・健康増進のための食事指導および食育の留意点と方法を学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、対象者の健康支援・疾病の回復に寄与する栄養学の基礎的な知識を身に付ける。</p>	

<p>薬理学</p>	<p>医薬品の薬理作用についての知識は医療および関連する仕事に携わる者にとっては必要なものである。従って、薬物の最新の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について学習する。さらに、「薬物に対する生体の反応」についての基礎的知識を学習する。また、認知症や高齢者などがよく服用する薬、ターミナルケアに用いられる薬など、今後臨床で重要となる最新の薬理情報を提示する。 この授業をとおして、臨床薬学の基礎的な知識を身に付けると共に、その作用等及びリスク等の生体の反応についての知識の修得を目指す。</p>	
<p>病理学</p>	<p>医療従事者（コメディカル）が身体で起きていることを異常な細胞や組織レベルで理解する。具体的には病気の原因の理解、変性や壊死、循環障害で出血や梗塞、細胞の異常増殖で腫瘍、生体防御反応、免疫反応について、実例のスライドを用いながら分かりやすく学習する。また、専門性を追求するのではなく、病状の基本的な捉え方、考え方が理解できるように、看護に関係する内容となるように教授する。解剖学、生理学の知識を再確認しながら、正常な人体との違いについて学ぶ。 この授業をとおして、病理学の基礎的な知識を得ると共に、解剖学、生理学の知識を確認し、臨床へつながる知識の修得を目指す。</p>	
<p>微生物学</p>	<p>細菌、ウイルス、真菌などの微生物についてその違いを解説し、細胞の構造、代謝生理、遺伝や変異などの生物学的な特徴を学ぶ。その上で、その感染を許容する生物の体の反応と予防法・治療法についても概説し、臨床的な知識の獲得に重きを置き、患者や家族に適切な説明が出来るように基礎的な内容を教授する。 この授業をとおして、医療の臨床において必要となる微生物に関する基礎知識の修得を目指す。</p>	
<p>看護物理学</p>	<p>この授業では、看護で行っている技術と物理学の関係について学ぶ。物理学の法則や理論が、看護用具や検査法、あるいは日常行われている看護技術に応用されていることを理解し、看護実践の根拠として物理学を学修する。牽引や体位変換、ネブライザーの原理、経管栄養、血圧、酸素ポンプ、真空採血、胃洗浄、オートクレーブ、低圧持続吸引装置、温療法、冷療法、内視鏡などを具体的に例としてとりあげ、物理学の観点から原理について学修する。 この授業をとおして、物理学がどのように看護へ応用されているのかを理解する。</p>	<p>共同</p>

<p>病態生理・治療学Ⅰ (成人急性期)</p>	<p>病態生理・治療学Ⅰ～Ⅶでは、正常な人体の構造や機能の知識を基礎として、疾病がどのような原因で起こり、その結果としてどのような症状・徴候・所見を示すのか、病理学的・生化学的な知識を用いて病態生理を理解すること、その上でどのような検査・治療方法が用いられるかについて学ぶ。</p> <p>この授業では、生命の危機的状況にある人や家族を対象に、急性期の特徴的な疾患と治療方法について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、成人急性期の特徴を理解し、急性期の状況にある成人期の患者・家族を包括的に捉え、状況の変化に即した適切な看護を実践するための基礎的な知識の修得を目指す。</p>	
<p>病態生理・治療学Ⅱ (成人慢性期)</p>	<p>この授業では、慢性的な病を持つ患者がその人らしい生活が営めるよう援助するために必要となる慢性期の疾病の基礎知識及び治療方法について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、成人慢性期の特徴を理解し、複雑多様化する個人の価値観に対応しながら、質の高い看護援助を実践するための基礎的な知識の修得を目指す。</p>	
<p>病態生理・治療学Ⅲ (老年)</p>	<p>この授業では、高齢者の意志を尊重し、健やかに老いることが出来るように援助するために必要となる、老年期における代表的な疾患の基礎知識及び治療方法について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、老年期の特徴を理解し、家族、保健、福祉とも連携しながら、高齢者を支援するための基礎的な知識の修得を目指す。</p>	
<p>病態生理・治療学Ⅳ (小児)</p>	<p>この授業では、先天性、遺伝性疾患をはじめ成長途上にある小児の疾患について、基礎的臨床医学知識を修得した上で、内科的疾患のみならず、外科あるいは関連各科も含め小児特有の疾患に関する基礎的な知識及び治療方法について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして小児期の特徴を理解し、成長発達段階や健康のレベルに応じた看護を実践するための基礎的な知識の修得を目指す。</p>	
<p>病態生理・治療学Ⅴ (母性)</p>	<p>この授業では、女性の生涯にわたる健康生活への支援について、特に生殖年齢・周産期にある人を中心として、特徴的な疾病の基礎知識及び治療方法について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、自身やパートナー・家族への関わりも含め、それぞれの母子に応じた看護を実践するための基礎的な知識の修得を目指す。</p>	

<p>病態生理・治療学VI (精神)</p>	<p>この授業では、精神疾患・障害の分類とそれらの成因、臨床症状の基礎知識及び治療方法等について学ぶ。 この授業をとおして「精神疾患」をもつ人々だけでなく、「身体疾患」をもつ人々の心理的背景の理解を促し、精神的・心理的回復を援助できる基礎的な知識の修得を目指す。</p>	
<p>病態生理・治療学VII (リハビリテーション)</p>	<p>この授業では、疾病・障害・加齢等を原因として生じる生活上の問題について概説し、日常生活活動(ADL)の自立とQOL(生命・生活・人生の質)の向上を図るリハビリテーションについて学ぶ。また、急性期から回復した際の社会復帰に関する支援についても学ぶ。 この授業科目をとおして、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患等の特徴について学び、リハビリテーションの基礎的知識の修得を目指す。</p>	
<p>公衆衛生学</p>	<p>公衆衛生とは「地域社会の努力によって、疾病予防、寿命延長、身体的・精神的健康の増進を図る科学・技術である」と定義されている。当科目では集団レベルにおける疾患の予防や健康管理の社会的位置づけ、意義を考える教養を身につける。なお、保健・医療に関わる統計指標を理解し、保健統計資料から健康課題やその対策を考える。 この授業をとおして、公衆衛生学に関する基礎的な知識を得ると共に、我が国の公衆衛生に関する知見を得ることを目指す。</p>	
<p>疫学</p>	<p>疫学とは、「明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てるための科学」と定義されている。当科目では疫学的な調査方法、解釈のしかた等を学び、実践活動に疫学的考え方を生かせるようにする。 この授業とおして、疫学に関する基礎的な知識を得ると共に、臨床に結びつけるための基礎的な知見を得ることを目指す。</p>	
<p>関係法規</p>	<p>看護師として基盤となる法律である「医療法」、「医療保険に関する法規」、「保健師助産師看護師法」を含む医療従事者に関する法規について学習する。看護サービスの提供において、これらの関係法規を理解することは不可欠である。医療・看護にかかわるニュースやトピックスも用いて関係法規の基礎的知識を教授する。 この授業をとおして、看護師としての関連法規の基本的知識を修得すると共に、遵法意識、職業倫理の涵養も図る。</p>	

<p>社会保障制度</p>	<p>この授業では、我が国の社会保障制度の4つの柱である「社会保険」、「公的扶助」、「社会福祉」、「保健医療・公衆衛生」について概説し、劇的に変化する社会において最新のニュースやトピックスを紹介しながら、社会保障制度の現状と課題を考える。とりわけ医療、介護の制度に関して、学生自身やその家族がどのような関わりがあるのか、具体的な例を元に我が国の状況と将来の課題について自ら考え、理解を深めることを目指す。</p> <p>この授業をとおして、我が国の社会保障制度について基礎的な知識を得ると共に、客観的視点で各制度の現状及び課題について説明する能力の獲得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (33 岡本 加奈子／10回)</p> <p>社会保障制度の概念、目的、機能、体系、内容について教授する。現代社会の変化と社会保障制度の動向について説明する。医療保障、所得保障、公的扶助について仕組みを説明し、近年の動向と今後の在り方について論じる。</p> <p>(8 赤星 誠／2回)</p> <p>障害者福祉制度について、障害者福祉制度の変遷とその背景、現在の制度の概要と課題について教授する。</p> <p>(21 吉村 牧子／3回)</p> <p>介護保障について、介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史、介護保険制度の概要、介護保険制度の課題と展望について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>医療情報学</p>	<p>この授業では、多くの医療機関でコンピュータやネットワークによる情報システムが導入され、業務が進められており、コンピュータを用いたデータ処理が多用されている現状において、医療の分野における様々な情報をどのように扱い、理解するのかを修得する。看護学を中心に学術情報の検索や文献の入手方法、保健・医療統計の手法、医療現場で使われる生体情報の見方について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、人々の健康に寄与するための情報を収集する技術、収集した情報を科学的・論理的に分析する能力を身に付ける。</p>	

	人間関係論	<p>この授業では、人間関係構築に関連する知識と技術、コミュニティーにおける人間関係のあり方、成長・発達に伴って変化する人間関係のあり方についての基本的知識を修得する。</p> <p>その上で、実際の人間関係の構築に寄与できるよう、また、将来看護師として倫理的な諸問題に対して適切な対応が出来るように、講義を通じて対人関係能力の向上を目指す。合わせて基礎的なコミュニケーションスキルについて紹介し、自己表現能力を涵養する。</p> <p>この授業をとおして、自らの考えや思いを正確に伝えながら看護師として望まれる誠実な傾聴する態度を身につけるための基礎的な素養を学ぶ。</p>	
	カウンセリング論	<p>この授業では、カウンセリングの諸理論について教授する。合わせてカウンセリング場面の基本的姿勢や技法を学ぶ。カウンセリングの基礎知識に基づき、自己理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図ると共に、看護における心理的援助のあり方についても理解する。また、各発達段階における感情と情動の発達、自我形成、行動の発達の变化についての基本的な知識についても学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、カウンセリングの基本的な理論及び各発達段階における心理的特性について理解すると共に、看護師として必要な援助的態度を身に付ける。</p>	
	看護学概論	<p>この授業では、看護の歴史や看護理論から、看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「生活（看護）」を捉えたいうえで、専門職としての看護とは何かを学ぶ。対象者を理解し、医療・看護倫理、医療保健福祉に関する法・制度、社会福祉システムとの関係などから、看護の責務と独自性、看護を实践する場と社会的機能としての看護について学び、看護職に必要とされる役割や機能について学修する。災害看護・国際看護についても概要を学ぶ。看護の歴史の変遷から現代までの分析をとおして、看護の課題と将来の展望についても考察を行う。</p> <p>この授業をとおして、適切な看護実践のあり方、継続看護、有効な看護過程の進め方まで、実践活動の基盤となる知識を身に付ける。</p>	
	基礎看護技術学 I	<p>この授業では、生活援助に関する基礎看護技術の中でも、コミュニケーション技術、教育指導技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術、環境を整える技術、活動・休息の援助技術について学ぶ。看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立に向けた生活援助の方法について学び、演習において実践を行うことによって基礎的技術の方法を学修する。</p> <p>この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立に向けた生活援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。</p>	共同

基礎看護技術学Ⅱ	<p>この授業では、生活援助に関する基礎看護技術の中でも、バイタルサインの測定、食生活の援助技術、排泄の援助技術、清潔・衣生活の援助技術について学ぶ。看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立に向けた生活援助の方法について学び、演習において実践を行うことによって基礎的技術の方法を学修する。</p> <p>この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立に向けた生活援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。</p>	共同
基礎看護技術学Ⅲ	<p>この授業では、治療援助に関する基礎看護技術を学修する。呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う看護技術、救命救急処置技術について学ぶ看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立を考えた治療援助の方法について学び、演習において実践やシミュレーションを行うことによって基礎的技術の方法を学修する。</p> <p>この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立を考慮した治療援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。</p>	共同
基礎看護技術学Ⅳ	<p>この授業では、学修した基礎看護技術が対象者の事例に合わせて、どのように実施されるのか検討して、生活援助や治療援助を組み合わせる実施する演習を行う。事例ごとに「患者の経過」「有する障害とその程度」「治療方法」を示し、学生が必要な援助を検討した上で、援助を計画し、実施する演習を行う。</p> <p>この授業をとおして、対象者を看護する上で必要な「臨床推論」の力を養い、この対象者には今、何が必要かを考えて援助を実践する能力を身に付ける。</p>	共同
看護過程論	<p>この授業では、様々な健康状態にある対象者に対して、効果的な看護を提供するための科学的な思考過程である看護過程の基礎を学修する。看護過程の概念と意義、そのプロセス、対象者の全体像の把握の仕方、アセスメントの視点、事実に基づいた合理的な判断の仕方、問題解決または目標達成に向けて個別性に合わせた看護を実施するための看護計画立案と実践、評価方法について、講義と紙上事例による演習で体験的に理解する。</p> <p>この授業をとおして、看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養い、問題解決能力や批判的思考能力を身に付ける。</p>	共同

ヘルスアセスメント	<p>この授業では、患者に個別的で適切な看護を実施するために、対象者のデータを情報収集しアセスメントする方法として、身体的・生理学的な情報および心理・社会的な情報を系統的かつ客観的に収集するヘルスアセスメントの方法と態度を学ぶ。フィジカルアセスメントは、全身・外観、鼻・耳・眼、乳房・リンパ系、筋・骨格系、神経系、呼吸・心臓・血管系、腹部と系統的に学ぶ。加えて、心理的・社会的側面のアセスメント方法を学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術、心理的・社会的側面のアセスメント方法を身に付ける。</p>	
基礎看護学実習Ⅰ	<p>この授業では、病院で実習を行い、入院患者とのコミュニケーションや看護師との関わりを通して、病院の設備施設、患者の療養環境、看護活動について学修する。病院・病棟・病室内の環境やシステムが、患者の療養生活の安全・安楽・自立に向けて、どのように整えられているのかを学ぶ。看護師と同行実習することによって、患者が受けている看護援助の実際、看護師および他の職種との連携について知る。患者とのコミュニケーションによって、患者の健康障害に対する気持ちや、入院生活における患者の持つニーズについて理解する。</p> <p>この授業をとおして、患者の療養生活や看護師の役割を知り、看護師を目指す自己の課題に対して研鑽する態度を身に付ける。</p>	共同
基礎看護学実習Ⅱ	<p>この授業では、病棟において1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、看護上の問題の明確化、援助計画の立案、実施という看護過程を展開することによって、患者の状態にあった日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して実施することを体験的に学修する。看護学生として、個人情報取り扱い、看護師への報告・相談、受け持ち患者との援助関係の構築など、実習に必要な基本的態度についても学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、病棟で治療をうけている患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、個別性に合わせた、安全・安楽かつ自立に向けた日常生活援助を実施する能力を養う。</p>	共同

<p>チーム医療論</p>	<p>この授業では、チーム医療について基礎的知識とチーム医療において果たす看護の専門性と役割について理解する。チーム医療の基礎的知識として、チーム医療の目的・意義、保健・医療・福祉におけるチーム医療と看護、多職種の連携・協働と看護職の役割、連携と協働、地域における関連職種・関係機関の連携・協働について学ぶ。チームを組む専門職種の役割を知り、多職種連携に求められる専門能力と多職種連携における看護職の役割について理解する。 この授業をとおして、チーム医療が必須の現代において、専門職としてチームの中で看護の役割を果たすことができる素地を養う。</p>	
<p>看護倫理学</p>	<p>この授業では、看護倫理の基礎的知識と倫理的葛藤場面での意思決定方法について理解する。看護倫理の基礎知識として、倫理理論、看護倫理、看護倫理の歴史的推移、道徳的感受性と道徳的レジリエンス、看護師の職業意識と倫理、患者の尊厳、アドボカシー、レスポンシビリティとアカウントビリティ、倫理的責任と法的責任、インフォームド・コンセント、情報プライバシーと守秘義務について学ぶ。倫理的意思決定のステップを理解し、倫理的課題を含む事例を用いて、意思決定の過程を学ぶ。 この授業をとおして、看護倫理の基礎知識を身に付ける。</p>	
<p>成人看護学概論</p>	<p>この授業では、成人期にある人の身体的心理的社会的特徴、生活と健康課題について理解する。成人期にある人の特徴として、成長発達、身体機能、生活、健康観、学習について学ぶ。成人期における生活習慣、ワーク・ライフ・バランス、更年期などの特徴と健康障害との関連について学修する。成人看護に有用な概念として、セルフケア、ストレス、危機、適応、自己効力、ヘルスプロモーションについて学ぶ。 この授業をとおして、成人期にある人を多面的な視点からアセスメントし、成人期の健康課題の特徴および様々な健康レベルにある成人に対する看護のあり方を理解する。</p>	

<p>成人看護学各論 I A (急性期：周手術期)</p>	<p>この授業では、成人期に疾患や外傷のために手術という侵襲的治療を受けた人に生じる身体機能の障害、生活機能におよぼす影響、ボディイメージの変化について理解し、周手術期にある患者に対する看護を学ぶ。手術療法を受ける患者の特徴と様々な術後合併症を知り、予防的な介入方法、患者の感染予防の看護について理解する。演習として、呼吸器・循環器・消化器・脳神経系・運動器に障害がある人の主要な手術を取り上げ、看護についてシミュレーションを用いて看護過程を展開することによって、周術期の看護を学修する。</p> <p>この授業をとおして、成人期にある人に対する周手術期の基礎的知識と生体の変化、手術過程に応じた看護支援について理解する。</p>	<p>共同</p>
<p>成人看護学各論 I B (急性期：救急看護・クリティカルケア)</p>	<p>この授業では、成人期における緊急を要する危機的状況にある人への看護として、救急看護、クリティカルケアについて学修する。救急看護の基礎知識として、救急医療の歴史と動向、救急医療体制、プレホスピタルケア、救急医療と関連法令、集中治療の現状を学んだ上で、救急医療・集中治療における看護として、救急医療・集中治療下の患者の特徴、救急医療・集中治療下の患者の家族の特徴、救急医療・集中治療における看護について学修する。演習では、救急看護の実際として、救急患者に対するアセスメント、緊急度と重症度の判断、心肺蘇生と救命処置について、シミュレーションで実施する。クリティカルケアとして、脳死状態に陥った患者と臓器移植、急性心筋梗塞、くも膜下出血、急性大動脈解離、意識障害、広範囲熱傷などの事例をとおして、病態・診断・治療を理解し、看護方法をシミュレーションする。</p> <p>この授業をとおして、成人期の救急看護、クリティカルケアを必要とする人への看護について基礎的な能力を身に付ける。</p>	<p>共同</p>

<p>成人看護学各論Ⅱ (慢性期)</p>	<p>この授業では、慢性疾患を有する成人期にある人とその家族が抱えている問題を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、慢性期看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。成人期の発達課題、慢性疾患を有する成人期の人に関する保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や生活習慣病など日本が抱える課題について学ぶ。成人期にある人を取り巻く環境を含め幅広く社会の現状をとらえながら、慢性疾患を有する成人期にある人への看護のあり方を修得する。</p> <p>この授業をとおして、慢性疾患を有する成人期にある人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身に付ける。</p>	
<p>リハビリテーション看護学</p>	<p>この授業では、リハビリテーションを受ける対象に必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。対象者の障害の構造を国際生活機能分類（ICF）に基づいて把握し、障害のある人の特徴をふまえた安全・安楽の確保、機能回復を支えるリハビリテーション看護の実際を学ぶ。チーム医療における看護職の役割、他職種との連携の方法と必要性について理解する。</p> <p>この授業をとおして、リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 堤 かおり／7回) 成人期にあり手術後リハビリテーションを受ける対象に必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を教授する。対象者の障害の構造を国際生活機能分類（ICF）に基づいて把握し、障害のある人の特徴をふまえた安全・安楽の確保、機能回復を支えるリハビリテーション看護の実際を説明する。</p> <p>(4 高田 美子／8回) 高齢者で生活機能の維持・増進を目的にリハビリテーションを受ける対象に必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。対象者の障害の構造を国際生活機能分類（ICF）に基づいて把握し、障害のある人の特徴をふまえた安全・安楽の確保、機能回復を支えるリハビリテーション看護の実際を説明する。高齢者のリハビリを支えるチームにおける看護職の役割、他職種との連携の方法と必要性について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>高齢者看護学概論</p>	<p>この授業では、高齢者看護のために必要な基本概念を学び、加齢による身体的、心理的、社会的特徴とそれに伴う生活の変化について理解し、高齢者看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。高齢者の発達課題、高齢者に関する保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や超高齢社会の日本が抱える課題について学ぶ。高齢者を取り巻く環境を含め幅広く超高齢社会の現状をとらえながら、健康長寿社会を目指す日本における、高齢者看護のあり方を修得する。</p> <p>この授業をとおして、高齢者看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3 藤本 由美子／8回) 高齢者看護のために必要な基本概念を学び、加齢による身体的、心理的、社会的特徴とそれに伴う生活の変化について理解し、高齢者看護における理論・概念を用いて看護援助の方法を教授する。</p> <p>(4 高田 美子／7回) 高齢者の発達課題、高齢者に関する保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や超高齢社会の日本が抱える課題について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>高齢者看護学各論Ⅰ</p>	<p>この授業では、高齢者に対して必要な看護技術について学ぶ。加齢変化をとらえるフィジカルアセスメントの技術を修得する。高齢者に特徴的な症状として、起立・歩行障害、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、低栄養、皮膚トラブル、褥瘡、尿失禁、うつ、寝たきり、せん妄、転倒・骨折について、基礎知識を学び、予防と看護方法について演習を行いながら修得する。</p> <p>この授業をとおして、高齢者の健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。</p>	<p>共同</p>
<p>高齢者看護学各論Ⅱ</p>	<p>この授業では、高齢者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。生活機能に関する加齢変化や、高齢者に特徴的な老年症候群が、高齢者の生活にどのような影響をもたらすのかという視点で看護過程を展開し、高齢者の状況や健康レベルに応じたケア計画を具体的に実施することによって、看護技術を修得する。</p> <p>この授業をとおして、高齢者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。</p>	<p>共同</p>

<p>成人・高齢者看護学実習Ⅰ (急性期)</p>	<p>この授業では、病棟で周手術期にある患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、周術期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。周手術期にある受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の手術前後における看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。</p> <p>この授業をとおして、手術後という急性期にある患者のニーズを知り、看護過程の展開をとおして、急性期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	<p>共同</p>
<p>成人・高齢者看護学実習Ⅱ (慢性期)</p>	<p>この授業では、病棟で慢性疾患を有する患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、慢性期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。慢性疾患を有する受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。</p> <p>この授業をとおして、慢性疾患を有する患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、慢性期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	
<p>成人・高齢者看護学実習Ⅲ (リハビリ期)</p>	<p>この授業では、病院でリハビリテーションを必要としている高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、リハビリテーション期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。リハビリテーションを必要とする高齢受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者のリハビリテーションにおける看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。残存機能の維持・増進、転倒予防、意欲低下予防、地域への復帰、介護保険制度の利用など、高齢者の特徴をふまえてリハビリテーションを支える看護を体験する。</p> <p>この授業をとおして、リハビリテーションを必要とする高齢患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、回復期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	<p>共同</p>

成人・高齢者看護学実習Ⅳ (生活支援)	<p>この授業では、高齢者入所施設において、高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、高齢者とその家族について理解し、状況に応じた適切な生活支援を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。入所高齢者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち高齢者における生活上の問題を抽出し、計画を立案・実践する。認知症のある高齢者への対応、残存機能の維持・増進、転倒予防、誤嚥予防、いきがい作りなど、入所高齢者の特徴をふまえて、対象者を支える支援を体験する。</p> <p>この授業をとおして、入所高齢患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、高齢者における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	共同
成人・高齢者看護学実習Ⅴ (地域連携)	<p>この授業では、入院中で退院支援を必要とする高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、退院支援を必要としている高齢患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な退院支援を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。入院時から退院後を想定した援助方法の工夫、退院後を意識した指導、高齢者・家族の意思確認、地域で支える専門職とのミーティングなど、退院支援について受け持ち患者をとおして学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、退院支援を必要とする高齢患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、退院後に向けた、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	共同
小児看護学概論	<p>この授業では、小児看護の対象である子どもと家族の特徴ならびに子どもを取り巻く社会・医療・家族・環境状況について学び、小児看護の役割について理解する。小児看護の対象者を理解し、小児に関する法律や政策、子どもの権利擁護について学ぶ。健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について知り、健康障害や小児各期に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。</p> <p>この授業をとおして、小児看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身に付ける。</p>	
小児看護学各論Ⅰ	<p>この授業では、小児の患者に対して必要な看護技術について学ぶ。アセスメント技術として、健康歴の聴取、小児のバイタルサイン測定、身体計測、コミュニケーション技術（プレパレーション）、検査・処置技術、日常生活援助技術（食事、清潔・衣生活、排泄、呼吸、移動、環境調整）、救急救命処置技術について、基礎知識を学び、小児の発達段階と特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得する。</p> <p>この授業をとおして、小児の障害や健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。</p>	共同

小児看護学各論Ⅱ	<p>この授業では、小児の患者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を、小児期に罹患することが多い疾病を事例にあげ看護過程を展開することによって修得する。</p> <p>この授業をとおして、成長発達をふまえて小児の患者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。</p>	共同
小児看護学実習	<p>この授業では、病棟で小児の患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって小児期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。小児の受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。幼稚園等においては健康な小児と接し、小児の健康な成長発達の状況を学ぶ。支援学校では子どもたちと接し、障害を持ちながら地域で通学する子どもへの支援のあり方を知る。</p> <p>この授業をとおして、小児の患者や家族のニーズを知り、看護過程の展開を通して、小児期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	共同
母性看護学概論	<p>この授業では、母性看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、母性看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。母性看護からみた親子・家族関係、親役割獲得、家族移行のプロセス、出産をめぐる歴史、倫理的問題、母子をとりまく文化・社会、ヘルスプロモーションについて学び、母性看護をとりまく現状と課題について学ぶ。対象者の健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。</p> <p>この授業をとおして、母性看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身に付ける。</p>	
母性看護学各論Ⅰ	<p>この授業では、周産期の対象者に対して必要な看護技術について学ぶ。妊娠期の看護技術として、妊娠に伴う生理的変化と胎児の健康状態に関するアセスメント、ハイリスク妊婦への支援、分娩期の看護技術として、正常分娩の経過とアセスメント、正常経過からの逸脱とアセスメント、出生直後の新生児のアセスメント、褥婦の正常経過からの逸脱とアセスメント、新生児のアセスメントと支援方法について、基礎知識を学び、周産期の各期の特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得する。</p> <p>この授業をとおして、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。</p>	共同

母性看護学各論Ⅱ	<p>この授業では、周産期の対象者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。ハイリスク妊婦、分娩の正常経過からの逸脱、褥婦の正常経過からの逸脱など、周産期の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、周産期の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。</p> <p>この授業をとおして、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。</p>	共同
母性看護学実習	<p>この授業では、病棟で周産期にある対象者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって周産期にある人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。周産期にある受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、周産期を安全・安楽に経過するための支援方法を計画し、実践する。</p> <p>この授業をとおして、周産期にある対象者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、周産期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	共同
精神看護学概論	<p>この授業では、精神看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、精神看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。日本における精神保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や日本が抱える課題、精神看護からみたライフサイクルにおける対象者個人及び家族の精神発達やメンタルヘルス上の課題について理解する。患者の人権と安全を守りながら、心の健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。</p> <p>この授業をとおして、精神看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身に付ける。</p>	
精神看護学各論Ⅰ	<p>この授業では、精神疾患患者に対して必要な看護の支援方法について学ぶ。精神症状をとらえるための観察方法、アセスメントに用いられる主な理論、精神看護におけるコミュニケーション技法、生理学的側面からアプローチする検査、心理学的側面からアプローチする検査、社会機能を知る尺度、心理学的側面からアプローチするケア・支援、社会復帰・社会参加の基本と働きかけについて、基礎知識を学び、精神疾患患者の特徴に合わせた看護の支援方法について演習を行いながら修得する。</p> <p>この授業をとおして、精神疾患患者に対して、精神の健康レベルに応じた看護の支援技術を身に付ける。</p>	共同

看護の展開科目

<p>精神看護学各論Ⅱ</p>	<p>この授業では、精神疾患患者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護の支援技術をシミュレーションで実施する。急性期の統合失調症、在宅における慢性期の統合失調症、うつ病、双極性障害、パニック障害、アルコール使用障害など、精神の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、精神障害の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。 この授業をとおして、精神疾患患者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。</p>	<p>共同</p>
<p>精神看護学実習</p>	<p>この授業では、病棟で精神疾患患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって精神を病む人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。精神科の受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。社会復帰のための支援施設へ通う人たちと接し、精神障害を持ちながら地域で生活する人への支援のあり方を知る。 この授業をとおして、精神疾患患者や家族のニーズを知り、看護過程の展開を通して、精神疾患患者に対する、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>	<p>共同</p>

<p>地域・在宅看護学概論</p>	<p>この授業では、地域・在宅看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、地域・在宅看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。訪問看護制度の確立と個別ケア展開の歴史、地域・在宅看護をめぐる社会文化的背景、地域・在宅における終末期の考え方、地域・在宅看護の法的基盤とシステム、居宅等における医行為の特徴と課題、退院支援のあり方と多職種連携、チームケアとマネジメント、在宅看護と他職種との連携について理解する。地域・在宅で療養する対象者の人権と安全を守りながら、健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。</p> <p>この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身に付ける。</p>	
<p>地域・在宅看護学各論 I</p>	<p>この授業では、地域・在宅看護の対象者に対して必要な看護技術と支援方法について学ぶ。療養を支援する看護技術として、口腔ケアと嚥下訓練、排泄支援、清潔ケア、移動の援助、肺炎予防、感染予防、心不全予防、低栄養予防について、基礎知識を学び看護技術について方法を修得する。医療を支援する看護技術として、服薬管理、在宅酸素療法（HOT）、在宅輸液療法、在宅人工呼吸療法（HMV）、腹膜透析、経管栄養、膀胱留置カテーテル、呼吸リハビリテーション、疼痛管理、褥瘡管理について基礎知識を学び看護技術について方法を修得する。</p> <p>この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者に対して、療養の特徴に応じた看護の支援技術を身に付ける。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（18 鷲野 貴子／6回） 地域・在宅で療養を支援する看護技術として、口腔ケアと嚥下訓練、排泄支援、清潔ケア、移動の援助、肺炎予防、感染予防、心不全予防、低栄養予防について、基礎知識を説明し、看護技術について教授する。</p> <p>（9 池西 和哉／9回） 地域・在宅で医療を支援する看護技術として、服薬管理、在宅酸素療法（HOT）、在宅輸液療法、在宅人工呼吸療法（HMV）、腹膜透析、経管栄養、膀胱留置カテーテル、呼吸リハビリテーション、疼痛管理、褥瘡管理について基礎知識を説明し、看護技術について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>地域・在宅看護学各論Ⅱ</p>	<p>この授業では、地域・在宅看護の対象者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護の支援技術をシミュレーションで実施する。要介護高齢者への在宅看護、認知症高齢者への在宅看護、がんの療養者への在宅看護、神経系難病の療養者への在宅看護、慢性感染症をもつ療養者への在宅看護、疾病や障害をもつ小児への在宅看護、精神疾患をもつ療養者への在宅看護、終末期の療養者への在宅看護について療養者の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。 この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。</p>	<p>共同</p>
<p>地域・在宅看護学実習</p>	<p>この授業では、訪問看護ステーションにおいて、訪問看護を受けている対象者を訪問することによって、在宅で療養する人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。訪問する対象者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、訪問看護計画の内容を理解する。訪問看護ステーションの機能とそこで働く看護職の役割および関係機関・多職種との連携の重要性を理解する。在宅療養を支える社会資源の意義と課題について学ぶ。 この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の健康レベルに応じて、安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する能力を養う。</p>	<p>共同</p>

<p>緩和ケア</p>	<p>この授業では、緩和ケアの概念を理解し、看護実践を提供するための基礎知識を修得する。緩和ケアの基盤となる考え方（意思決定を支えるケア、家族ケア、喪失と悲嘆のケア、スピリチュアルケア）、緩和ケアの実践方法、看取りのケア、看取りを迎える家族へのケアについて学ぶ。学生の臨地実習体験をふまえて、紙上事例について検討を行う。諸外国における緩和ケアの体制を学び、日本における緩和ケアの展望と課題について理解する。</p> <p>この授業をとおして、緩和ケア実施に必要な基礎知識と今後の課題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(2 堤 かおり／4回)</p> <p>緩和ケアの基盤となる考え方（意思決定を支えるケア、家族ケア、喪失と悲嘆のケア、スピリチュアルケア）、緩和ケアの実践方法、看取りのケア、看取りを迎える家族へのケアについて教授する。</p> <p>(14 温井 由美／4回)</p> <p>学生の臨地実習体験をふまえて、紙上事例について検討を行う。諸外国における緩和ケアの体制を説明し、日本における緩和ケアの展望と課題について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
-------------	--	----------------

<p>災害看護論</p>	<p>この授業では、災害看護の基礎的知識と実際場面での実践方法について理解する。災害看護に関する基礎的知識として、災害に関する制度（災害対策基本法・災害救助法・防災計画など）、災害関係各機関の支援体制、災害時の被災者および援助者の心理、災害各期における看護活動、在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護、災害時に必要な技術、病院における災害看護、災害看護における倫理・教育・理論について学ぶ。実践方法として、対象別にみた災害看護の実践として、母性看護と災害をとりあげて、具体的な事例を示して検討することによって学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、災害看護の基礎知識と実践する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>△ 西上 あゆみ／6回)</p> <p>災害看護に関する基礎的知識として、災害に関する制度（災害対策基本法・災害救助法・防災計画など）、災害関係各機関の支援体制、災害時の被災者および援助者の心理、災害各期における看護活動、在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護、災害時に必要な技術、病院における災害看護、災害看護における倫理・教育・理論について教授する。</p> <p>(12 北出 千春／2回)</p> <p>対象別にみた災害看護の実践として、母性看護と災害をとりあげて、具体的な事例を示して検討することによって教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>看護管理学</p>	<p>この授業では、看護管理の基礎的知識と管理に必要な技術について理解する。基礎的知識として、看護管理学とは、マネジメントの定義、看護組織と管理、看護提供方式、組織変革、看護管理プロセスについて学ぶ。管理に必要な技術として、資源の獲得と配分、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、管理行動（コミュニケーション、アサーション、指示、交渉、葛藤の解決）、自己管理、医療連携、アウトカムマネジメント、安全管理、リスク管理、職場環境づくりについて学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、専門職としてより効果的・効率的なケアを実現するための方略の基盤を理解する。</p>	

<p>感染看護学</p>	<p>この授業では、感染看護の基礎的知識と感染予防に必要な技術について理解する。感染看護の基礎知識として、市中感染および医療関連感染（院内感染）の定義、感染の3要素、感染予防策の考え方の歴史的变化と標準予防策、感染症法（1～5類感染症）、消毒と滅菌について学ぶ。院内感染対策の方法として、サーベイランス、アウトブレイク、感染症法にかかわる届け出、トリアージ、標準予防策と感染経路別予防策、医療廃棄物について理解する。事例として母子感染をとりあげて検討する。</p> <p>この授業をとおして、感染看護の基礎的知識を知り、感染予防が実践できる能力を養う。</p>	
<p>看護教育学</p>	<p>この授業では、わが国の看護教育制度、カリキュラムや教育評価など、看護学教育に関する基礎的な知識を学ぶ。看護教育学とは何か、専門職の特徴からみた日本の看護、実践の学問としての看護学、多職種連携教育（IPE）、看護制度・看護教育制度の歴史的变化、看護教育制度の現状、看護学教育の基盤、自己主導型学習、カリキュラム開発、カリキュラムデザイン、カリキュラム評価、学習理論と学習方法、教育評価について学ぶ。臨地実習における教育と学習として、経験型実習教育の方法と看護学教育における臨地実習の位置づけを知り、看護学生が直面しやすい問題について検討する。</p> <p>この授業をとおして、学生自らが受けている看護学教育について理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（1 關戸 啓子／6回） 看護教育学とは何か、専門職の特徴からみた日本の看護、実践の学問としての看護学、多職種連携教育（IPE）、看護制度・看護教育制度の歴史的变化、看護教育制度の現状、看護学教育の基盤、自己主導型学習、カリキュラム開発、カリキュラムデザイン、カリキュラム評価、学習理論と学習方法、教育評価について教授する。</p> <p>（10 那須 さとみ／2回） 臨地実習における教育と学習として、経験型実習教育の方法と看護学教育における臨地実習の位置づけを説明し、看護学生が直面しやすい問題について検討する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>看護理論と実践</p>	<p>この授業では、看護理論の基礎的知識を学び、実践事例をとおして看護理論が実際に臨床現場で応用されていることを理解する。基礎的知識として、看護学と看護理論の関係、看護理論とは、看護理論の種類、看護理論の歴史と動向、日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響について学ぶ。看護理論を実践に活かしている事例を、精神看護学の場合と、母性看護学の場合について学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、看護理論の必要性と実践へ応用される意義について理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(①關戸 啓子／4回) 基礎的知識として、看護学と看護理論の関係、看護理論とは、看護理論の種類、看護理論の歴史と動向、日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響について教授する。</p> <p>(⑥山本 明弘／2回) 看護理論を実践に活かしている事例を、精神に障害のある複雑で多様な対象者に対する看護の場合について説明する。</p> <p>(13木野（藤本）寛子／2回) 7～8回 看護理論を実践に活かしている事例を、母性看護学の正常な妊娠・出産の経過をたどる妊娠期の場合について説明する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
----------------	---	----------------

<p>地域精神保健学</p>	<p>この授業では、地域精神保健について、ライフサイクルに沿って学修する。ライフサイクルと地域精神保健の課題、周産期の精神の健康、乳幼児期から学童期の精神の健康、思春期と青年期の精神の健康、成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）、老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）について学ぶ。地域精神医療福祉の現状と課題と精神の健康に関する普及啓発活動について理解する。</p> <p>この授業をとおして、地域精神保健の基礎的な知識と課題について理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（7 山本 明弘／5回）</p> <p>ライフサイクルと地域精神保健として、周産期の精神の健康、乳幼児期から学童期の精神の健康、思春期と青年期の精神の健康、成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）、老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）について教授する。</p> <p>（17 横谷 知也／3回）</p> <p>地域精神医療福祉の現状と課題について説明する。精神の健康に関する普及啓発活動について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>国際看護論</p>	<p>この授業では、国際看護について基礎的知識と活躍の場について学修する。国際看護の基礎知識として、国際看護の重要性、国際看護と異文化看護の関係、世界にみる国際看護協力の歴史、看護と文化、異文化の理解と看護、異文化への適応、世界の健康課題、世界的健康課題を引き起こす感染症、災害（自然災害・人為災害）に起因する健康問題、世界の健康課題に関連する国際機関・国際協力機関、世界の保健医療システムと課題について学ぶ。看護師が国際的に活躍する場として、国際看護協力に関係する機関、海外での看護師登録、海外の現場からみる日本と海外の看護業務の違い、海外で日本人看護師が働くうえでの課題について理解する。</p> <p>この授業をとおして、グローバル化した現代において、国際社会で看護を実践するための素地を養う。</p>	
<p>看護の統合 I（演習）</p>	<p>この授業では、既修の知識・技術を統合し、与えられた紙上事例について、適切に看護過程を展開する能力を修得する。シミュレーションを用いて、高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、演習を行う。</p> <p>この授業をとおして、高度な看護実践能力を育成する。</p>	<p>共同</p>

看護の統合Ⅱ（演習）	<p>この授業では、既修の知識・技術を統合し、与えられた紙上事例について、適切に看護実践を行うことができるか、学生ひとりひとり技能試験を行う。そのため、事前にいくつか与えられた事例について、シミュレーションを用いて練習する期間を与える。高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、技能試験を実施する。</p> <p>この授業をとおして、臨床で求められる看護実践能力の基礎を身に付ける。</p>	共同
看護の統合Ⅰ（実習）	<p>この授業では、病棟で病棟の看護管理者に随行し、看護管理の実際を学ぶ。看護管理者が行っている病室管理、物品管理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リスク管理、職場環境づくりの実際を学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、看護管理の必要性と役割を理解する。</p>	共同
看護の統合Ⅱ（実習）	<p>この授業では、実習の集大成として、既修の知識・技術・態度を統合し、看護学生が実習で自分の課題として残っていることや、興味がありさらに充実したい内容、自分の将来のキャリアに向けて体験したい内容などに従って、実習を学生が教員と相談しながら計画し実施する。</p> <p>この授業をとおして、臨床で求められる看護の実践能力を高める。</p>	共同

	<p>看護研究 I</p>	<p>この授業では、研究を行う一連の流れを学ぶ。看護研究のテーマの決定、テーマに関連する文献検索、研究論文のクリティーク、看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）について理解する。 この授業をとおして、看護研究に求められる研究の基礎的知識を修得する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（7 山本 明弘／5回） 看護研究のテーマの決定、テーマに関連する文献検索、研究論文のクリティーク、看護研究計画書に記載が必要な内容について教授する。</p> <p>（3 藤本 由美子／5回） 看護研究を進めるにあたって質的研究方法（調査方法、分析手法）、看護研究を行う上での倫理について教授する。</p> <p>（9 池西 和哉／5回） 看護研究を進めるにあたって研究の枠組み、量的研究方法（アンケート作成方法、統計処理）について教授する。</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>看護研究 II</p>	<p>この授業では、個人またはグループで卒業研究を実施する。看護研究のテーマの決定、テーマに関連する文献検索、研究論文のクリティーク、看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）について体験し、研究成果を卒業論文として作成し、大学内で発表を行う。 この授業をとおして、看護研究に求められる研究の基礎的実践力を育成する。</p>	<p>共同</p>

学校法人平成医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宝塚医療大学				宝塚医療大学				
保健医療学部				保健医療学部				
理学療法学科	70	-	280	理学療法学科	70	-	280	
柔道整復学科	60	-	240	柔道整復学科	60	-	240	
鍼灸学科	30	-	120	鍼灸学科	30	-	120	
和歌山保健医療学部				和歌山保健医療学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法専攻	60	-	240	理学療法専攻	60	-	240	
作業療法専攻	40	-	160	作業療法専攻	40	-	160	
<hr/>				<hr/>				
計	260	-	1,040	計	310	-	1,240	
平成医療学園専門学校				平成医療学園専門学校				
柔道整復師科昼間Ⅰ部	60	-	180	柔道整復師科昼間部	60	-	180	
柔道整復師科昼間Ⅱ部	30	-	90	鍼灸師科昼間Ⅰ部	30	-	90	
鍼灸師科昼間Ⅰ部	30	-	90	鍼灸師科昼間Ⅱ部	30	-	90	
鍼灸師科昼間Ⅱ部	30	-	90	東洋療法教員養成学科	10	-	20	
東洋療法教員養成学科	10	-	20	日本語学科日本語1年コース	20	-	20	
日本語学科日本語1年コース	20	-	20	日本語学科医療福祉系1年コース	20	-	20	
日本語学科医療福祉系1年コース	20	-	20	日本語学科進学1.5年コース	60	-	120	
日本語学科進学1.5年コース	60	-	120	日本語学科進学2年コース	60	-	120	
日本語学科進学2年コース	60	-	120	応用日本語学科1年コース	40	-	40	
応用日本語学科1年コース	40	-	40	応用日本語学科2年コース	20	-	40	
応用日本語学科2年コース	20	-	40	<hr/>				
計	380	-	830	計	350	-	740	
横浜医療専門学校				横浜医療専門学校				
柔道整復師科昼間	60	-	180	柔道整復師科昼間	60	-	180	
柔道整復師科夜間	60	-	180	柔道整復師科夜間	30	-	90	
鍼灸師科昼間	60	-	180	鍼灸師科昼間	60	-	180	
鍼灸師科夜間	60	-	180	鍼灸師科夜間	30	-	90	
日本語学科進学1.5年コース	20	-	20	日本語学科進学1.5年コース	20	-	20	
日本語学科進学2年コース	20	-	40	日本語学科進学2年コース	20	-	40	
<hr/>				<hr/>				
計	280	-	780	計	220	-	600	
なにわ歯科衛生専門学校				なにわ歯科衛生専門学校				
歯科衛生士学科昼間	72	-	216	歯科衛生士学科昼間	72	-	216	
歯科衛生士学科夜間	36	-	108	歯科衛生士学科夜間	36	-	108	
<hr/>				<hr/>				
計	108	-	324	計	108	-	324	
名古屋平成看護医療専門学校				名古屋平成看護医療専門学校				
看護学科	40	-	120	看護学科	40	-	120	
理学療法学科	35	-	140	理学療法学科	30	-	120	
柔道整復学科	54	-	162	柔道整復学科	30	-	90	
はり・きゅう学科	60	-	180	はり・きゅう学科	40	-	120	
アスレティックトレーナー学科	50	-	100	アスレティックトレーナー学科	25	-	50	
<hr/>				<hr/>				
計	239	-	702	計	165	-	500	
日本総合医療専門学校				日本総合医療専門学校				
柔道整復学科	60	-	180	柔道整復学科	60	-	180	
<hr/>				<hr/>				
計	60	-	180	計	60	-	180	